

「三位一体の聖エリザベトとともに歩む」

(1) 神の住まい エリザベト



兄弟姉妹の皆さま 主のご復活おめでとうございます！

コロナの影響で人々がまるで暗闇の中にいるかのような状況は過ぎ去りました。完全に「大丈夫」と言うことはまだできないと思いますが、少しずつ光が見える日が続いているのではないのでしょうか。これからも、墓の暗闇の中から復活されたイエス様と共に歩み、新しい道をしっかりと踏み、信仰により生きてまいりましょう。

4月には主の受難をはじめ、聖木曜日、聖金曜日、聖土曜日、すなわち聖週間があり、そして主のご復活のお祝いがあります。聖マルコ福音記者と聖カタリナ（シエナ）おとめ教会博士の祈りに支えられて4月を歩みましょう。

今回は、三位一体のエリザベトの心に存在する三位一体の神を中心に、神秘的一致を達成した彼女の精神性をご紹介します。エリザベトの精神性は、人間の心の中に三位一体の神が存在すること（三位一体の神の住まい）の一点にその本質があります。

エリザベトの精神性の背景

多くの聖人聖女のように、エリザベトは福音を彼女の人生の中心にしました。彼女はいつも沈黙と念祷の中でそれを考えていました。カルメル会の規則にも、「誰もが自分の小屋にとどまり、昼夜を問わず祈りを守り、主の掟について瞑想しなければなりません。」と定められています。エリザベトが聖書の最も深い意味を見つけ、カルメルでの日常生活の中でそれを生きたのは、沈黙の中でした。聖書を通して、エリザベトはすべてのキリスト者の召命の本質、つまり神との一致を深く理解するようになりました。その一致は、人が自分の魂に沈みこむときに起こります。

聖三位一体が人の心に住まわれることを体験していたエリザベトはすべて聖書に基づいていました。精神性の基礎とするために、彼女は常に聖書に立ち戻り、参照していました。繰り返し彼女はヨハネによる福音書とヨハネの手紙を引用しました。また、神学的価値に富んだ使徒パウロの手紙から取られたものが、彼女の著作の詩のあちこちに見られます。

エリザベトは女子カルメル会員として、先駆者であるアビラの聖テレジアと十字架の聖ヨハネから受け継がれたカルメル豊かな精神性を継承しました。これら2人のスペインの人物は、エリザベトの精神生活の発展に大きな影響を与えました。アビラの聖テレジアの例に続いて、この若いカルメル会修道女は、神が人間の魂に住まわれることについて繰り返し話しました。人間の魂の奥底に、陛下（神）は彼の花嫁（人間）の到着を待っている偉大な王のように住まわれます。十字架の聖ヨハネが言っているように「神が人間の魂に宿られ、人間は神の神性に生かされる」、

すなわち、「聖なる交換が可能になるのは死と自己否定を通して人の魂の最も深いところで達成される」と。彼女が天国と呼んでいるカルメルの沈黙の中で、死、自己否定、内なる沈黙のすべての段階を経て、エリサベトは愛する三位一体の神との愛情のこもった一致に身を浸しました。

エリザベトは、この並外れた恵みに応えて、彼女の手紙の1つで述べられているように、ついに教会での彼女の召命を見つけました。「神は非常に単純で愛情のこもった聖なる行動を通して、彼らが大きな内なる沈黙の中にとどまり、神の前に自分自身を明らかにし、彼らを彼自身に変える柔軟性を与えるのを助けます。」ここでもまた、十字架の聖ヨハネからの多大な影響があり、特にその一致で「魂は魂よりも神になる」という聖なる交換について非常に大きな影響があるようです。使徒聖パウロが言っているように「しかし、私に住んでいるのは神です。」「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」(ガラテア 2:20)

神の住まい

エリザベトは、「神の住居」という彼女の名前の意味に従って呼ばれました。実際、この召命はすべてのキリスト者の召命です。その根拠は、使徒パウロの手紙「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。」(1 コリント 3:16)にあります。または「わたしたちは生ける神の神殿なのです。」(2 コリント 6:16)。

洗礼の恵みによってすべてのキリスト者は神の聖なる神殿＝神の住む場所になりました。ですから、すべてのキリスト者は「神の住まい」なのです。エリザベトはこの名前の意味について次のように書いています。「私の魂は彼の神殿、彼の宝、そして彼の王国になりました。私は自分の人生を神に委ねることだけを考え続け、愛する人がエウカリスチアを祝ってくれた大きな愛に対して少額の報酬を与えることを考え続けました。」さらに彼女は書いています。「私は完全に神に属しています。さまざまなパーティーや人々との出会いの中で、私は主に畏敬(いけい)の念を抱いています。…私には、その人が常に彼のために、常に彼の聖なる存在で、常に彼の存在下で行動するならば、彼から人をそらすことはできないようです。魂の奥深くまで浸透した神聖な視界の下で。この世界の真っ只中でさえ、私たちが彼と一人で暮らすことを切望する心の沈黙を通して彼の声聞くことはまだ可能です。」私たちの魂の中に神の存在を感じるために、絶対的な条件は心の沈黙です。キリスト者は沈黙を通して、神が愛のささやきにより神ご自身を伝えて来るのを聞くことができます。ホレブ山のエリヤは、「そよ風」(沈黙の象徴)の中で神の存在を感じる事ができました。

(来月につづく)

主のご復活の恩恵により、皆様お一人お一人にすべての困難や不安を乗り越えることが出来る勇気を神が与えてくださるようにお祈りと祝福をお贈りいたします。

2023年4月

カトリック上野毛教会 主任司祭

ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.